

せせらぎ

No. 339



白いコマクサとの偶然の出会い



2017年10月



滋賀県勤労者山岳連盟 湖南岳友会

目次

1. 表紙からのメッセージ	P. 1
2. 私のひとりごと	P. 2
3. 10月例会山行案内【白山 (2702m)】	P. 3
4. 登山祭典山行案内【雨乞岳 (1238m)】	P. 4
5. 08月例会山行報告【40周年記念・上高地集中登山 総括】	P. 5
6. 08月例会山行報告【40周年記念・上高地集中登山 徳本峠コース】	P. 10
7. 08月例会山行報告【40周年記念・上高地集中登山 槍ヶ岳コース】	P. 15
8. 08月例会山行報告【40周年記念・上高地集中登山 穂高岳コース】	P. 18
9. 08月例会山行報告【40周年記念・上高地集中登山 上高地散策コース】	P. 19
10. 08月例会山行報告【六甲山 トウエンティックロス～シェール道】	P. 24

今後の予定

日程	区分	内容
09月24日(日)	県連主催	比良縦走大会
09月30日(土)	定例会議	19:00～21:00 コミセンやす
10月01日(日)	例会山行	京都北山・品谷山/廃村八丁
10月07日(土)～8日(日)	例会山行	白山(2702m)
10月28日(土)	定例会議	
10月29日(日)	県連主催	登山祭典「雨乞岳(1238m)」 担当山岳会:湖南岳友会

表紙からのメッセージ

白いコマクサとの偶然の出会い

7. 8月にピンク色の花を咲かせ、高山植物の女王と呼ばれるコマクサ。

18年前に八ヶ岳に登り、硫黄岳～横岳の斜面でコマクサの群生に、更に足元で白いコマクサを見ることが出来て大変感激した。

それ以来何処の山でも白いコマクサには出会った事がない。私の貴重な写真として保管しています。



M. T

私のひとりごと

S.M.

岳友会に入会させてもらい10月で丸6年になります。
数多くの体験をさせてもらい、充実した年月だったと思っています。
今年も8月までで、40余りの山や街道歩きやトレッキングに行くことができました。

なぜ、そんなに山に行くの?と尋ねられて、とっさに答えられませんが、家に帰ると「お帰り!無事帰って来たね」と主人の言葉に迎えられ、車、クーラー、テレビ三昧の現代生活にどっぷり浸かりながら、何て幸せなんだろう!と再確認します。

達成感と満足感で包まれ、疲れた体を蘇らせてくれます。

歩ける体であることに感謝の気持ちが湧いてきます。

毎回、こんな気持ちを味わえることが、最大の喜びだと思います。

【青春とは人生のある時期のことではなく、心のありようをいう。

強い意志、豊かな想像力、燃えあがる情熱、ひるまない勇氣、あくなき冒険心。そうゆうありようが青春。

年を重ねただけで人は老いない。夢を失ったとき、初めて老いる。

歳月は皮膚のシワを増すが、情熱を失ったとき、精神はしなびる。】

サミエル・ウルマン 青春(Youth)

5年前の、せせらぎの「私のひとりごと」に、書いたのと同じことですが、1回、1回の山行を楽しみながら、一年でも長く続けていきたいと願っています。



10月例会山行案内

白山 (2702m)

白山は古くから信仰登山の歴史がある日本三大霊山の一つです。最高峰の御前峰から白馬、劔、立山、槍、乗鞍、御岳の山並みが一望できます。いくつもある登山コースから、今回は別当出合を基点とした一泊二日の周遊コースです。少々体力を要しますが、今後アルプス登山を目指している方には特にお勧めコースです。

実施日 : 2017年10月7日(土)・8日(日)

集合場所 : 野洲駅 06:10 竜王7&11 06:30

行程 : ・初日(7日) 砂防新道コース 【歩行時間 3時間】

市ノ瀬ビジターセンターP⇒バス乗車⇒別当出合⇒甚之助避難小屋⇒南竜道分岐⇒南竜山荘(小屋泊)⇒南竜ヶ馬場(テント泊)

・二日(8日) 展望コース・観光新道 【歩行時間 6時間】

南竜ヶ馬場⇒南竜山荘⇒アルプス展望台⇒室堂⇒御前峰⇒室堂⇒黒ボコ岩⇒殿ヶ池避難小屋⇒別当坂分岐⇒別当出合⇒バス乗車⇒市ノ瀬ビジターセンターP

装 備 : 小屋泊、テント泊装備は参加者に別途連絡します(帰路入浴予定)

申込先 : 2017年9月30日の定例会議までにご連絡ください。



白山例会山行 登山コース

雨 乞 岳 1238[㍿]

鈴鹿山系の雨乞岳は、県境稜線より東に位置しておりその東は綿向山に連なり、南北の連なる鈴鹿山系の中でこの辺りで東西に幅を広げている。

頂上に通じる登山ルートは幾つか在るが今回は、甲津畑よりフジキリ谷を詰めツルベ谷出合から杉峠を経て頂上に至り、南雨乞岳を経て奥ノ畑谷を経由して登山口に下山するルートです。

下りの奥ノ畑谷はバリエーションルートですが、危険な個所は無く紅葉の鈴鹿を満喫できるコースです、「公開登山」ですので、一般の方々の参加も歓迎します。

実施日：2017年10月29日(日) 小雨決行

(雨天などの荒天で中止の場合のみ10/28(土)午後7:00までにEメールか電話にて連絡します)

集合場所&時間：永源寺支所前の駐車場 午前8:00

(R421「山上小学校前」信号、手前約300[㍿]右側)

サブ集合場所：野洲駅7:00→竜王コンビニ7:20→永源寺支所

交通費は岳友会の規定により実費を頂きます

参加費：一般の方 **¥800** {内訳:交通費600円 (集合場□登山口)+保険代100円+ブタ汁代100円}

会員の方 **¥700** {内訳:交通費600円 (集合場□登山口)+ブタ汁代100円}

定員：一般の方20名+労山会員

登山コース

ツルベ谷出合(登山口)→蓮如上人遺跡→杉峠→雨乞岳→南雨乞岳→奥ノ畑谷分岐→奥ノ畑谷→蓮如上

人遺跡→登山口

歩行時間約6時間30分

持ち物・個人：登山のできる服装、登山靴、帽子、手袋、雨具、防寒具、ヘッドライト、昼食、お茶、おやつ
食器(お椀、箸 / 頂上でブタ汁を作ります、食べる準備を各自でお願いします)

会員の方は「お湯、適量」

共同装備：救急箱、無線機、コッヘル大、ガスコンロ×2台、ガスボンベ×2、ブタ汁×参加人数分

申込：10月15日(日)までに申し込んでください。

雨乞岳山頂



山頂より東雨乞岳を望む



上高地集中登山

湖南岳友会は 1978 年の設立から今年で 40 年目となる記念の年です。この 40 周年記念事業のひとつとして、上高地小梨平でのテント泊による上高地集中登山を実施致しました。

4つのコースに分かれたメンバーが、8月12日（土）午後、全員上高地小梨平キャンプ場へ集合する大イベントです。メンバーは一夜を共に過ごし、40年を振り返りさらなる発展を展望しました。



1. 各コースの紹介

- ・徳本峠コース （霞沢岳 島々～徳本峠～上高地 クラシックルート）
- ・槍ヶ岳コース
- ・穂高岳コース （穂高連峰縦走）
- ・上高地散策 （①上高地散策コース ②徳本峠コース ③焼岳コース）
- ・その他 （上高地散策③焼岳コースに合流）

全参加者 各コース計 21名 （男性 16名 女性 5名）

2. 各コースの参加者とルート

■徳本峠コース

参加者 計 9名 （女性 4名）

8月10日（木） 野洲駅→平湯温泉駐車場→上高地→小梨平キャンプ場

8月11日（金） 小梨平小梨平キャンプ場→島々登山口→二股→岩魚留小屋→徳本峠小屋

8月12日（土） 徳本峠小屋→霞沢岳→徳本峠→明神→小梨平キャンプ場

8月13日(日) 小梨平キャンプ場→平湯温泉駐車場→帰路



■槍ヶ岳コース

参加者 計3名

8月10日(木) 野洲駅→平湯温泉駐車場→新穂高センター→槍穂登山口→穂高平夏道入口→穂高平小屋

8月11日(金) 穂高平小屋→白出沢出合→南沢→槍平小屋→千丈乗越分岐→飛騨乗越→槍ヶ岳山荘→槍ヶ岳穂先→槍ヶ岳山荘

8月12日(土) 槍ヶ岳山荘→槍沢ロッジ→横尾山荘→徳沢ロッジ→明神→小梨平キャンプ場

8月13日(日) 小梨平キャンプ場→平湯温泉駐車場→帰路



■穂高岳コース

参加者 計2名

8月12日(土) 小梨平キャンプ場

8月13日(日) 小梨平→岳沢小屋→紀美子平→前穂高岳→紀美子平→奥穂高岳→穂高岳山荘

8月14日(月) 穂高岳山荘→奥穂高岳→ジャンダルム→天狗のCOL→天狗の頭→間ノ岳→赤岩岳→

西穂高岳→西穂独標→丸山 11:45→西穂山荘→新穂高ロープウェイ西穂高口



■上高地散策コース

参加者 計7名 (女性1名)

8月11日(金) →平湯温泉駐車場→上高地→小梨平キャンプ場

8月12日(土) それぞれに分かれて散策

・上高地散策コース 計2名 (女性1名)

上高地散策 (T)、河童橋～大正池付近散策、岳沢小屋までの岳沢トレイル (N)

・徳本峠コース 計1名

・焼岳コース 計4名

小梨平キャンプ場→田代橋→登山口→峠沢→焼岳小屋→中尾峠→焼岳山頂→

焼岳小屋→登山口→ウエストーン碑前→河童橋→小梨平キャンプ場

8月13日(日) 小梨平キャンプ場→平湯温泉駐車場→帰路



■その他

参加者 1名 (上高地散策コースのオプション「焼岳コース」に合流)

3. 上高地小梨平キャンプ場へ集合

8月12日（土）午後、小梨平キャンプ場に徳本峠コースの9名、槍コースの3名、散策コースの6名、穂高コースの2名、他1名、計21名が合流し、湖南岳友会創立40周年記念をみんなで祝いました。当夜は、小梨平キャンプ場でテント泊です。滋賀から遠く離れたこの上高地に、会員の約半数の21名が集まり感謝です。





徳本峠（とくごう）コース

北アルプス 霞沢岳（2646m） 島々～徳本峠～上高地 クラシカルルート

- 日 時 2017年8月10日（木）～8月13日（日） 前泊1・後泊1 含む
参加者 計9名（男5 女4）
コースタイム ■2017/8/10（木）■
6:10 野洲駅集合 ～ 12:45 上高地小梨平キャンプ場（1535m）着 ～ テント泊
■2017/8/11（金）■
6:30 上高地小梨平キャンプ場 ～ ジャンボタクシーで登山口へ移動 ～
7:35 島々登山口（728m） ～ 9:20 二俣 ～
11:45～12:15 岩魚留小屋（いわなどめこや）（1280m） 昼休憩 ～
14:30 ちから水 ～ 15:30 徳本峠 徳本峠小屋「峠の宿」（2135m）～小屋泊
■2017/8/12（土）■
6:15 徳本峠 ～ 7:15 ジャンクションピーク（2428m） ～
10:10 K1ピーク（2590m） ～ 11:05～11:40 霞沢岳（2646m） 昼食～
12:20 K1ピーク ～ 14:55 ジャンクションピーク ～ 15:50 徳本峠 ～
17:30 明神 ～ 18:30 上高地小梨平キャンプ場 ～ テント泊
■2017/8/13（日）■
8:15 上高地小梨平キャンプ場 ジャンボタクシー乗車 ～ 8:20 大正池 観光 ～
9:45 平湯バスターミナル 自家用車へ乗り換え ～ 14:00 野洲駅

島々から徳本（とくごう）峠を越え、上高地へ抜けるルートは、江戸時代より周辺の人々の生活に利用されてきました。明治時代になると日本アルプスを世界に紹介したウォルター・ウエストンや高村光太郎、作家の芥川龍之介も通った歴史ある峠道です。昭和8年にバスが上高地に乗り入れるまでは、この峠道は、登山者にとってのメインルートでした。

今回の山旅はこの峠道を島々の登山口からスタートし、島々谷及び島々谷南沢を遡上、徳本峠に至り、徳本峠小屋「峠の宿」で一泊、翌日、徳本峠から霞沢岳を目指し、帰りは同じルートで徳本峠へ戻り、そして上高地へ下山するという、古（いにしえ）の街道を歩く一泊二日の山旅です。

このコースはマイナーで登山者も少なく静かな山旅が楽しめ、島々谷の爽やかな清流と一緒に歩く、気持ちのいいコースですが、地味で体力を要するコースでもあります。

1. 上高地小梨平キャンプ場でテント泊

涼しく美しい自然に囲まれたキャンプ場で快適です。今夜はここでテント泊です。夜食のメニューは焼肉で、美味しく頂きました。小梨平キャンプ場には温泉もあり、たくさんのキャンプ客で賑わっています。翌朝、河童橋で記念撮影後、上高地からジャンボタクシーで島々登山口（728m）へ向け出発。



2. 島々登山口 出発 (728m)

島々登山口を出発します。

島々谷及び島々谷南沢を遡上し、緩斜面が連続しています。歩き初めは車も通れるぐらい広い砂利道を歩いて行きます。平坦でとても歩きやすい道が続きます。沢筋に沿って細くなった登山道を進んで行くと、たくさんの橋を渡る事になります。最近造られた橋、鉄で出来た橋、昔の木造の朽ち果てそうな橋、色々な橋に出会います。



3. 岩魚留小屋 (いわなどめこや) (1280m) で昼休憩

岩魚留小屋手前の橋のたもとで昼食。岩魚留小屋は無人休業中の廃墟と化した小屋です。

その後、登山道は川の本流から外れてジグザグに登って行くようになり、荒々しい沢筋に沿って登山道があります。

峠までの道の最後はつづら折りの急斜面となり、ここまで7時間程も歩いて疲れている体には堪えます。そうして突然徳本峠小屋の前に飛び出します。



4. 徳本峠 徳本峠小屋「峠の宿」(2135m)

歩き始めて8時間で「徳本峠」に到着します。徳本峠には、「徳本峠小屋「峠の宿」」が建っています。

今夜はこの小屋に泊まります。最近新しく建てた新館での宿泊で、とても綺麗な山小屋です。

お盆の混雑もなく、ゆったり山小屋ライフを楽しめます。徳本峠小屋展望台からの穂高連峰の眺望は、最高の景色です。ガスが晴れた暫くの間、穂高連峰の山々の頂きが目の前に現れ、切り立ったピークがアルペン風で大変感動的です。右側に尖っているのが「前穂高岳」、中央左にあるなだらかな頂きが「奥穂高岳」です。



5. 霞沢岳（2646m）へ出発

翌朝、足の故障でここでメンバー1名が下山されるため、出発前に徳本峠小屋「峠の宿」前で記念撮影し、霞沢岳へ出発。いきなりの急登のジャンクションピークです。ここからは、霞沢岳方面の展望が得られます。鞍部からK1ピークまでは標高差で350m程ですが、足場が悪い斜面で、ピーク手前はガレのレンゼで落石に要注意です。長い急登ですがロープがあり助かります。K1ピークの手前で森林限界を超え、本来なら展望が開けますが、今日はガスで何も見えません。





6. 霞沢岳 (2646m)

霞沢岳は上高地を挟んで穂高岳と対峙する位置にあるため、穂高連峰の絶好の展望台です。

山頂は狭く、到着時に展望はありませんでしたが、その後、突然ガスが晴れ展望が暫く開け記念撮影。

コースタイムを大幅に超えていたため、早々に下山開始。徳本峠から霞沢岳の標高差は500メートルほどしかありませんが、アップダウンが多く、累積標高差は800メートルを超えます。徳本峠からのピストンだけで所要時間は約9.5時間掛かりました。コースタイムは7時間のルートですが。



7. 下山 徳本峠 徳本峠小屋「峠の宿」へ下る

登ってきた道を折り返します。K1 ピーク付近からは、明神から右方向の徳沢あたりから、長七ノ頭、茶臼ノ頭、大天井から連なる表銀座が眺望できます。下りの急坂は滑りやすく、複数人が転倒します。



8. 下山（上高地方面へ）明神へ下る

徳本峠で休憩後は、預けておいた荷物を引き取り、上高地明神方面へ下って行きます。ここから「明神」までの道は、崩れやガレている所は無く、快適な登山道です。気持ちの良い林間コースを抜けると、午後 17 時 30 分に「明神」に到着です。ここまで来ると帰って来た感が強く出てきます。



9. 集合

小梨平キャンプ場で槍コースの 3 名、散策コースの 6 名、穂高コースの 2 名、他 1 名と合流します。湖南岳友会創立 40 周年記念をみんなで祝います。今夜は、小梨平キャンプ場でテント泊です。滋賀から遠く離れたこの上高地に、会員の約半数の 21 名が集まり感謝です。



集中登山 槍ヶ岳

日時 2017年8月10日(木)～8月13日(日)

参加者 計3名

コースタイム 8月10日(木) 野洲駅 6:10 - 平湯 12:20 - 新穂高センター 13:00 -
槍穂登山口 13:10 - 穂高平夏道入口 13:30 - 穂高平小屋 14:00
8月11日(金) 穂高平小屋 6:15 - 白出沢出合 7:05 - 南沢 9:10 -
槍平小屋 9:40 - 千丈乗越分岐 11:50 - 飛騨乗越 13:20 -
13:35 槍ヶ岳山荘 14:10 - 15:00 槍ヶ岳穂先 - 16:30 槍ヶ岳山荘
8月12日(土) 槍ヶ岳山荘 4:15 - 槍沢ロッジ 8:25 - 横尾山荘 9:50 -
徳沢ロッジ 11:00 - 明神分岐 12:10 - 小梨平キャンプ場 12:50
8月13日(日) 小梨平キャンプ場 8:15 - 帰路

8月10日(木)

新穂高センターから槍ヶ岳を目指します。初日の今日は、1時間ほど歩いた穂高平小屋です。



穂高平小屋は空いており、また食事も豪勢、丸太を切り抜いた情緒あるお風呂もあり快適に過ごせました。

8月11日(金)

槍ヶ岳を目指して出発します。



槍ヶ岳を目指してどんどん高度を上げています。



飛騨乗越を經由して槍ヶ岳山荘に着きました。
ガスで槍ヶ岳の穂先が見えません。。



少し休憩した後、槍ヶ岳の穂先を目指すことになりましたが、このような天気にもかかわらず、穂先を目指す人で渋滞です。。 穂先では少し雨が降ってきましたので、記念撮影して早々に下山します。



360°の展望を期待していましたが叶わず、
少し意気消沈して小屋に戻りましたが、
夕食後にその雄姿を現してくれました。



次に来た時には晴天を期待して
翌日に備え、早めに就寝しました。

8月12日（土）

この日の夜は小梨平キャンプ場に集まって夕食会。下山後の美味しい食事とビールを期待してひたすら下ります。
振り向くと、「また、おいで」と言っているような槍ヶ岳が見えます。



8月13日(日)

楽しく充実した槍ヶ岳山行も今日で終わり。
この日の朝は晴天。綺麗な山並みを見ながら帰路につきました。



槍ヶ岳コース 感想文 1

途中の穂高平避難小屋で1泊し槍ヶ岳山荘へ、今回で3度目の同ルートからの登頂
標高2550mの千丈沢乗越の分岐から飛騨乗越の間はしんどかった、昨夜は小屋泊で
十分な睡眠をとり体調は万全であったが、加齢とともに体力の衰えを実感した登りでした

40周年記念事業 上高地集中登山 <槍ヶ岳コース>の一口感想 2

槍ヶ岳は、5年前に上高地から新穂高温泉に降りるコースを2泊3日で登ったが、今回は逆に新穂高温泉から登って上高地に降りる2泊3日のコースだった。

当日は山の日だったので、登山口から1時間で着く穂高平小屋で泊まったが意外にも宿泊客は4名と少なかった。殆どの登山客は奥の槍平小屋に泊まったのだろう。穂高平小屋には風呂がある。直径が約2mの大木を輪切りにして中をくりぬいたもので入浴は快適であった。夕食・朝食とも手がかかった料理で十分に美味しかった。一泊8000円は値打ちありと思う。

翌日、飛騨沢の登り当たりから槍ヶ岳の穂先が見え隠れしてきたが、飛騨乗越までくると疲れがピークになったので十分休みをとった。槍ヶ岳山荘は登山客がいっぱいで、テント場も満杯の表示があり、テント泊にしないで良かった。槍の穂先では今回もガスで残念ながら360度の眺望は得られなかった。次回は是非晴天の時に登りたいと思っている。【Y. O】

集中登山「槍ヶ岳」感想文 3

憧れの槍ヶ岳への登山。どのような眺望だろうかという期待と、まだ駆け出しの自分に登れるのだろうかという若干の不安のなか新穂高センターを出発。初日は穂高平小屋までの約1時の工程を曇り空のなか歩きました。

穂高平小屋は小さな小屋ですが、宿泊者は少なく食事はとても豪勢、大木をくりぬいた趣のある湯ぶねを薪で炊くお風呂もあり、とても快適に過ごせました。

2日目は槍ヶ岳の穂先を目指します。曇り空ですが時々晴れ間ものぞき絶景も見られるなか標高をどんどん上げていきますが、高度を上げるに従って息遣いも荒くなり、先頭のお二人についていくのがやっとという状態に。槍ヶ岳山荘に到着後、少し休憩をとったあと穂先を目指しましたが、残念ながらガスで期待していた360°の眺望は見られずじまい。しかし、三上山でのトレーニングのおかげで無事に頂上に登ることができ満足できる山行となりました。一方、槍ヶ岳山荘はとても大きな山荘ですが、さすがに人気があるため国内外から多くの登山客で賑わっており、少々窮屈な思いをしました。

3日目は小梨平までひたすら下りです。殺生小屋付近からときどき見える槍ヶ岳を背に、約9時間という長い工程でしたが、雄大な山々や高山植物を楽しみながら下山することができました。

小梨平では他のコースの方たちと合流しお酒をかたむけながらの夕食。山や岳友会の話などをして楽しく過ごせました。

私にとっては7月の針ノ木岳につづき、人生2回目の北アルプス。針ノ木岳の時は夏風邪をひいていたせいだと思いましたが、体調の良かった今回の槍ヶ岳山荘でも食欲があまり無く少し頭痛もあったことから軽い高山病になっていたようです。高度を下げると楽になり、小梨平に戻ってきたときには食欲も出てきました。

今年、無事にアルプスデビューできたので、高山病を克服し、来年か再来年には縦走も経験できたらと思います。

上高地集中登山『穂高連峰縦走』

◇日程：'17.8.13～14

◇メンバー：2名

◇コースタイム



8/13 曇り

小梨平6：00→岳沢小屋7：45→紀美子平10：30→前穂高岳11：00→紀美子平11：30→奥穂高岳13：30→穂高岳山荘14：30

8/14 曇り

穂高岳山荘4：15→奥穂高岳4：50→ジャングルム5：50→天狗のCOL7：05→天狗の頭7：40→間ノ岳9：00→赤岩岳9：45→西穂高岳10：00→西穂独標11：15→丸山11：45→西穂山荘12：20→新穂高ロープウェイ西穂高口13：45

◇コメント

岩稜帯のペイントを見落とし、コース間違いから瘦せた道を踏み抜きました。擦り傷と軽い打撲で済んだのが幸いでした。まずは360°コース確認を怠らないこと、落石に注意しつつ山側に重心を置くことの重要性を感じました。(H)

天気は良くて3000m級の岩場の稜線歩きは最高の贅沢でした。アップダウンの連続で高度感があり緊張の連続で難所もありましたが無事に縦走できました。また挑戦したいです。(Y)

40周年例会山行： 上高地散策コース 合計：7名

M

1. 日程

- 1) 8月11日(金) 滋賀⇒上高地
- 2) 8月12日(土) 3つのコースに別れ山行
 - ①上高地散策コース
 - ②徳本峠コース
 - ③焼岳コース
- 3) 8月13日(日) 上高地⇒滋賀

2. 各コースの報告・一口感想

2. 1. 上高地散策コース 2名

高2の夏、せっせと土方のアルバイトで貯めたお金でキスリングリュックとシュラフを買い、生まれて初めて信州へ一人旅をした。

高校の先生から信州行くなら上高地が一番とアドバイスを受けていた、しかし当時は何の知識もなく、上高地って何処？何がある？だったが、先生から教えられたままに立ち寄ることにした。

初めて上高地のバス停に降り立った際、周りは今と変わらず林の中で大した景色でもなかった、そろそろと観光客が行く方向に後ろからトボトボと歩いて行くと、急に前方の木立が開け、眼前に河童橋と穂高の峰々が飛び込んできた時の驚愕は今でも昨日の事の様に鮮明な記憶として残っている。

当時17歳、学校から京都や大阪、卒業旅行で東京へ行った程度の世間知らずが、急峻な岩稜の穂高を初めて見た瞬間の衝撃は相当なものだった。

その後幾度と訪れているが、今回、岳友会40周年記念という縁で久しぶりにシュラフで2晩過ごした。

雄大な穂高、梓川の流れる音、高2の夏に来た時と変わらぬ景色、そしてシュラフに潜り込むとシーンとした静寂さ、40数年前と何一つ変わらず私を暖かく迎え入れてくれ、遠く懐かしい記憶が再び蘇った。

T

今回3度目の上高地、いつも通過点でゆっくり散策は初めて。河童橋～大正池付近を散策し、やっぱり少しは登っておこうと岳沢小屋までの岳沢トレイルを行ってみた。雨予報が外れてくれて、散策中は雲の切れ目から焼岳、霞沢岳、前穂高、西穂高、奥穂などの山々を望むことができた。ゴージャスな眺めに大満足。今回は下から山を見るぞ！と参加した散策コース。次はこれらの山の頂目指して登るぞ！久しぶりのテント泊と野外の宴会はワクワクして楽しい夏休みになりました。皆さんお疲れ様でした。

N



静かな大正池

Photo: N

2. 2. 徳本峠コース 1名

沢を流れる水音がする。鳥の鳴き声、ハチの飛び回る音。哀しみも不安も無い、胸の中の塊が日向の雪のように解けてゆく。沁みだした汗の上を谷川の風が通り過ぎて行った。風の中にシュウの声を聴いた。

幼い子供の声、そよぐ風の気配、大勢の通り過ぎてゆく足音、細長い木のベンチに腰掛けて、ボンヤリと時を過ごしている。焦げ茶とグレーの鳩が足元のエサを啄んで歩いてゆく。登山帽に登山靴、可愛いザックを背負った男の子がハトをつかもうと追いかけて行った。

ああもういい。何もかも全てがもういい。心の中にある哀しみ、苦しみ、そして喜びさえ、全てのをリセットして新しくスタートするのだと言い聞かせた。それが出来るかどうかは分からないが。

橋の上から川をみる。水面に柵やダテカンバの木々が影を落として、上高地の日が暮れて行く。

水は流れて突き当たり、止まり、また流れて渦を作り、小さな波紋や大きな波をこしらえては消し、穂高の雪解け水を運んでいく。神降る地の夕暮れ、なにも寂しくはなかった。橋の上で小さな女の子の足音、子供たちの声、続いて子供の父を呼ぶ声が出て、間延びした大人の音がする。梓川のせせらぎの音を聴いた。シュウの臨終の時の白い顔が浮かんだ、何も哀しくはなかった。神降るという大地の自然の中で、風や、空気や、鳥や、虫の声や、あらゆるものに囲まれて、初めて抱かれて、シュウの腕の中で不安と恐れにおののきながら、期待に震えていた青春時代の自分が甦って来た。いま、哀しみも寂しさも無かった。

シュウの優しい眼差し、荒い息づかい、独特の雰囲気、香り、何もかもが自然に包まれてそれらは自分の中にあった。

(ショウ)



梓川沿いを小梨平キャンプ場に向かう

2. 3. 焼岳コース 4名

<コースタイム>

5:11 河童橋～7:12 登山口～8:31 焼岳小屋～9:53 焼岳山頂 10:59～13:50 登山口～14:48 河童橋

<コースの状況・感想>

初めて訪れる上高地と焼岳。今回はお盆前に帰宅する日程で上高地散策コースを選択し、オプションとして焼岳山行をした。

折しも前日(8月10日)に気象庁から「小規模なガス噴出を確認」ニュースが流れる。上高地に入ると同時に確認すると「ヘルメット着用と強いガスの匂いを感じたら下山すること」とアドバイスをを受け、山行に影響無しと判断し決行することに。

曇り空の中、小梨平キャンプ場を出発し、まずは朝靄が立ち込める河童橋に立ち寄る。5時過ぎとあり人は疎らであった。梓川沿いをゆっくりと登山口に向かう。右上を見ると穂高連峰が望めた。途中、急な梯子もあり心地よい緊張感を楽しむ。中尾峠からは焼岳山頂が望めるが生憎ガスの中。途中、噴出するガスの横を通ると鼻にツーンと刺すような臭いがした。山頂直下の北西には大きなガス噴出抗があり、回り込んで眺めた。相変わらずガスが取れず展望は望めなかった。下山からしばらくすると急に山頂周辺だけガスが取れ青空が現れ岸壁に覆われた山頂を太陽が照らした。ゴツゴツした岩場は勇ましく見えた。青空は山頂周辺だけで周囲の展望は叶わなかった。登山口近くまで下山すると「大正池と上高地・霞沢岳麓」が望めた。エメラルドグリーンの大正池は一際浮きだっていた。登山口も過ぎ、あとは散策道を小梨平キャンプ場に向けビールを目的に少々疲れながらも足早に歩を進め、冷えたビールで乾杯した。旨かった！

今回、山行前日に焼岳山頂付近のガス噴出ニュースが流れる中、大きな影響も無く無事山行を終えた。とりわけ、山頂付近のゴツゴツした岩とガスが噴出する北西の岸壁は印象深いものがあった。更に感動したことは上高地からの急に切り立つ 3,000m 級の幾つもの山岳は目を瞠るものがあった。山を初めて5年、少々遅きた上高地であるが今後幾度と無く足を運びそうな気がする。今度は、積雪期に上高地を訪れ周囲の山岳を写真に収めたいと強く思った。

M



5:11 の河童橋と明神岳方面



焼岳登山口を目指し朝靄の梓川沿いに行く



垂直に近い梯子をこなす



途中、小規模なガス噴出抗を横切る



ガスに包まれた山頂にて



山頂北西のガス噴出抗



一瞬山頂周辺青空が現る



エメラルドグリーンの大正池



少々疲れた足取りで小梨平に帰るメンバ(目的はビール)

以上

9月度例会山行報告 六甲山 トウエンティクロス～シェール道

- 1 日程 9月3日(日) 8:30集合 JR三ノ宮駅
- 2 参加者 15名
- 3 コース

8:30 JR三ノ宮駅→ 8:52 新神戸駅→ 9:00 布引の滝→ トウエンティクロス→ 10:25 河童橋→ 11:10 桜谷分岐→ 11:25 シェール分岐→ 11:55 マムシ谷分岐(昼食)→ 13:00 シェール槍→ 13:15 穂高湖→ 13:30 杣谷峠→ カスケードバレー 14:50 杣谷入口→ JR六甲道駅

涼を求めてトウエンティクロス～シェール道

9月初めといえどもまだまだ夏、台風の影響もなく曇り時々晴れ、新神戸駅に着くと大勢のお仲間が→さすが六甲という感じでした。

登山口から布引の滝へ、堰堤と砂防ダムを見ながら、昔は20回以上生田川を渡るということで名付けられたトウエンティクロス。水と風を感じながら木橋を渡り川をクロスする。

桜茶屋の前にいたトレランの若い人にあつという間に追い越され、日陰の中は涼しく、太陽にあたる斜面は暑く汗が止まらない中、約2時間で河童橋へ(どこかで聞いたような。大きな看板が)そこからマムシ谷分岐で昼食、その先にもまたどこかで聞いたような名前、でも結構時間がかかった。槍(シェール槍)、穂高湖と簡単にはたどり着けない。

シェール槍の頂上から神戸市街や穂高湖を望み これぞ六甲!大パノラマです。

穂高湖では大勢のハイカーに、子供たちは釣りを楽しんでいました。景色に見とれ休憩時間を長くとったようで杣谷から予定していた長峰山ルート进行を急きよ変更、下り時間の短いカスケードバレールートに変更し、木漏れ日



トレランの皆さん



何回目のクロスかな?



の中を柚谷口まで下山。市バスのバス停を見逃し、JR六甲道駅まで最後の汗をかきました。

一口感想

六甲山はいつ行っても、何度行っても魅力的なところ。

おしゃれな神戸の街から、ほんの少し歩くだけで、雄大な滝があったり、眺望スポットがあったり・・・さらにリトル信州まで。

新穂高にシェール槍、穂高湖、河童橋まであって、今回も変化に富んだ槍の頂上から神戸市街楽しいコースを歩きました。

歩くと汗をかくけど、立ち止まると涼しい風が吹いてなんといい気持ちに・・・秋がすぐそこまできていることを感じる事ができました。(G)



シェール槍頂上



穂高湖

